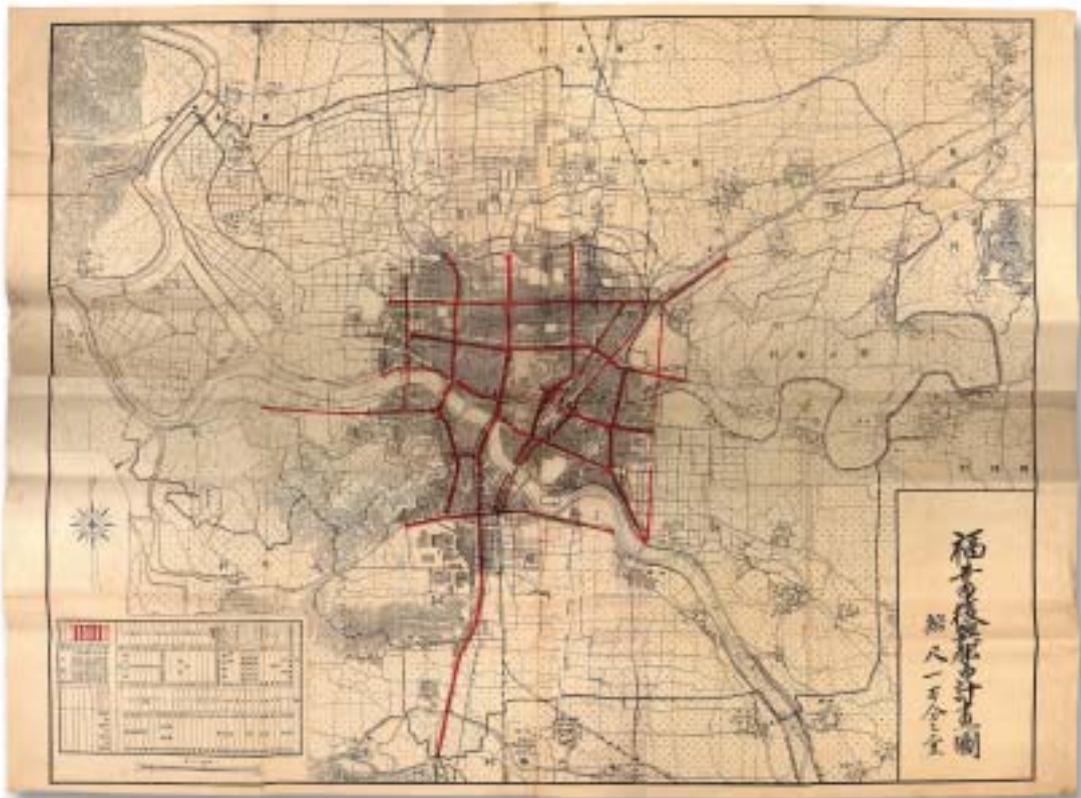


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



963-3 「風致地区の一部埋立について」土木部計画課 1959年(昭和34)

第9号目次

古文書読解グループ活動報告.....	2
文書館収蔵資料展示.....	3
歴史的公文書紹介.....	4
寄贈・寄託資料紹介.....	5-6
講演会・講座報告.....	7
お知らせ.....	8

第9号

2007.3

福井県文書館

特集

「古文書読解グループ活動報告」

福井県文書館では、より多くの県民の皆さまに利用していただくよう様々な取り組みを行っています。今回は、今年度新たな試みとして行われた自主的な古文書読解グループの活動を取り上げることにします。

毎月第4金曜日の13:30～15:30に約15名ほどが文書館研修室に集まり、これまで主に「組下諸事御用留（加藤与次兵衛家文書）」の参加者による輪読をしてきました。毎回、参加者の方は大変熱心で、一つの資料にみんなで真剣に取り組み、読みあっています。

以下、グループを代表して、嶋崎忍さんにこの一年間の活動について報告していただきました。



平成15年に福井県文書館が開館以来、毎年定期的に数回、古文書入門・初級講座が開かれて、多くの参加者があり、熱心に受講されている方々を見ると、古文書に対する県民の関心の高さ、輪の広がりを感じる。ただ、ある程度古文書の読解ができる中級以上の方にとっては、少し物足りない、あるいは講座の開催日数をもっと増やせないかという指摘や希望もあって、それなら講師が一方的に講義をする学校方式でなく、文書館の指導・助言のもと受講生がグループを作って自主的に古文書の読解の学習を進めてはという提言があり、古文書読解自主グループを立ち上げた。

毎月1回、古文書読解グループの会員10余名が県文書館に集まり、館に寄贈・寄託された江戸中・後期の県内の大庄屋などの御用留・日記類などの古文書の中から、会員が順番に1文章ごとに読解していき、途中読めないくずし字、変体仮名や異体字、意味が理解できない言葉などがあるときは皆に助言・応援をしてもらって読み進める。単に古文書を読解するというだけでなく、「金1両って今の金額にするといくらぐらい？」「年貢米はどこへどのようにして運んだの？」「暮六つ時というのは何時のこと？」「福井城下の米町・魚町・塩町というのは？」などなど、古文書に出てくる時代背景、地域の習慣や特殊事情それぞれに詳しい会員から解説を聞けるのも学習意欲を掻き立てる。ゆっくり時間をかけて、和気あいあいの内に意見を交わし皆が納得できたところでその日の当番が通して音読し、次の古文書の解読に移る。

毎月1回のグループの例会も回数を数えて十数回。会員の気心も知れ、会の運びの要領もどうやら板につき、文書館から提示される次の課題文書が待ち遠しい。

グループ例会の楽しみはというと、まず、「習うよりは慣れる」ともいわれるが、初めのうちはとても読めそうにないと思われていた癖のある文字の文書でも、いつの間にかどうやら思ったより早く読解できるようになったことがあげられる。次に、歴史の教科書には載っていないような子供の喧嘩や家庭内のもめごとまで200年以前の越前の庶民の日常生活の様子がつぶさに目に浮かんでくる。また、テレビの時代劇人気ドラマで毎回背景に京都の公事宿が放送されているが、現在グループで読解に取り組んでいる古文書の中にも当時の福井城下の公事宿のことが出てくる。当時の城下の様子を想像するだけでもわくわくする。

今後、一人でも多くの県民の方に古文書に興味を持ってもらいたい。親しんでいただきたい。古文書読解グループの輪が幾重にも大きく広がっていくことを願っている。

(嶋崎 忍)

文書館収蔵資料展示

(閲覧室での常設展示)

文書館では、福井県に関する歴史的な資料として重要な公文書、古文書などを保存しています。今年度からは、収蔵資料の中から数点ずつ月1回展示替えを行って原本展示を開催しています。

今回は今年度の後期展示の内容をご紹介します。なお、11月は、県農業試験場から資料を受け入れたこととコシヒカリ育成50周年を記念して、県農業試験場と連携して企画展を開催しました。

展示内容

10月 「国宝・文化財の記録」

昭和6年から32年の県内の文化財指定などに関する公文書(昭和34年)、記録されていた文化財の写真(福井県史編さん時の資料)

11月 「コシヒカリ育成記録展」(県農業試験場と共催)

農業試験場から受け入れた行政刊行物(明治～昭和)、コシヒカリ育成時の野帳、コシヒカリの生みの親石墨慶一郎氏などの写真パネル、コシヒカリの稲株など

12月 「江戸時代の読物とガイドブック」

江戸後期の読本作家秋里籬島作の和書3点13冊
「源平盛衰記図会」「保元平治闘図会」「東海道名所図会」
(吉川充雄家文書)

1月 「セピア色の新聞写真展 - 大正・昭和の日曜版から - 」

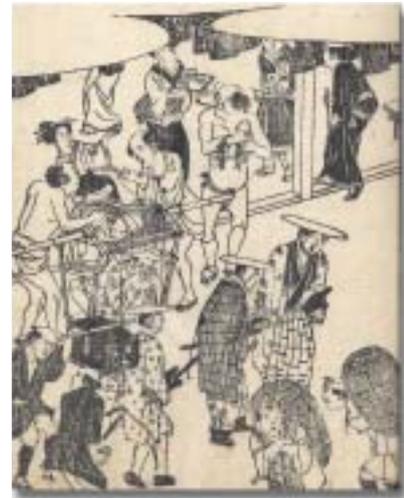
大正時代の議会や、昭和天皇を福井に迎えての陸軍大演習の様子を伝える新聞日曜版の写真(大正～昭和戦前期の大阪毎日、大阪朝日新聞)

2月 「鉄道員父子の残した路線図展」

父子2代で鉄道員を務めた加藤家に残されていた明治から昭和にかけての路線図を中心とする鉄道関係資料(加藤毅家文書)

3月 「三国を結ぶ鉄道の資料」

三国を通る鉄道敷設に関わる建議書や路線図などの資料(平野吉左衛門家文書)



「東海道名所図会」
(1797年)吉川充雄家文書



「福武電鉄・南越鉄道沿線名所図絵」(部分)
(1933年)加藤毅家文書

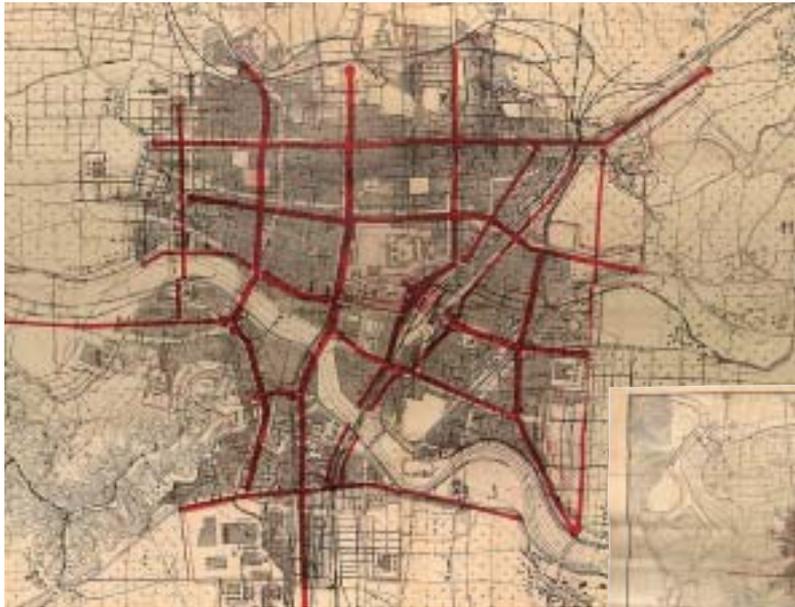
Cover Photo Story

表紙写真：963-3「風致地区の一部埋立について」土木部計画課1959年(昭和34)

詳細はp4で取り上げてあります。

福井市復興都市計画図

963-3「風致地区の一部埋立について」土木部計画課 1959年(昭和34)



(部分拡大)



この都市計画図は、風致地区である福井城址の堀の一部埋め立てに関する公文書の中に、参考資料として添付されているものです。公文書そのものは1959年(昭和34)に作成されていますが、この都市計画図は戦災後に計画された「福井戦災復興土地区画整理事業」のもので、その内容から1948年の福井震災以前の初期段階のものと考えられます。

この事業で、福井市街地には近代的な都市基盤をつくるため、市街地を縦走する旧国道8号線(現・フェニックス通り)を中心とする格子状の道路網が計画されました。フェニックス通りや駅前の中央大通り、さくら通りなど現在の多くの幹線道路は、この計画図に赤矢印で示されており、このときに整備や大幅な拡幅が計画されたことが分かります。

一方、同じ幹線道路は、福井駅の南側にも北陸本線を挟むように2本描かれていますが、現実には存在しません。当時は現在の駅前南通りが、城の橋通りと交わり、北陸本線に沿ってさらに県道東郷福井線(春日地下道付近)まで南に延びる計画だったようです。また、北陸本線の東側にも同様の道路が計画されています。

復興事業に着手して2年あまりが経過した1948年、福井市街地は震災に襲われ、街は再び壊滅的な被害を受けます。戦災を免れていた西木田、みのり地区近辺は、この計画図では復興都市区画整理区域に含まれていませんが、このときの被害により翌年施行区域に追加編入されることになります。

しかし、災害は一方で都市計画を一気に進める好機ともなりました。意欲的な取組が功を奏し、福井市街は全国的にも知られるめざましい復興をとげ、1969年に事業は完成しました。

古文書紹介

寄贈資料紹介

桜井市兵衛家文書(N0055)

食見^{しきみ}は、若狭湾に臨む常神半島の西側に位置し、小浜藩領の世久見浦の枝村でした。食見の人々は漁業権をもたず、江戸時代の早くから製塩業に従事していました。桜井家は、1665年(寛文5)6月の「わり申山之覚」(N0055-00205)からみると11人ほどの食見塩師の筆頭にあり、油桐(ころび)畑も所持し「紙屋」の屋号で、油桐の販売にもかかわっていました。内国勸業博覧会(1895年)や水産博覧会(97年)に食塩を出品した際の書類や褒状から、明治30年代まで製塩業に熱心であったことがわかります。

より興味深いのは、蔵書類や留書などの文化的な資料です。300冊をこえる豊富な蔵書には、江戸初期からの状態のいいものがたくさんあります。さらに18世紀中頃に食見から在京の俳諧(雑俳)の添削者へ送った句集など約70冊、同じ頃に残された聞書・留書(ほとんどが一紙)、学習者がはっきりしている19世紀に入ってからの手習の手本があります。

桜井市兵衛家蔵書群
(一部)

勝見宗左衛門家文書(B0037)

勝見家は代々宗(惣)左衛門を称し、元禄年間(1688~1704)以降、吉田郡上合月村で庄屋などの村役を務めたことが確認できる旧家です。

上合月村は九頭竜川の中流、表川・裏川に囲まれた中州(五領ヶ島)の先端に位置します。立地上水害に悩まされるとともに、大用水の取水堰が集中することから、堰普請、川除普請に関する争論も多かったです。寄贈いただいた資料は786点で、近世庄屋文書では越石の多い下合月村を含めた年貢関係文書が多く、そのほか宝暦年間(1751~1764)の鳴鹿大堰に関わる争論、川除普請の願書、松岡への渡船場の普請に関する願書などがあります。このほか安政期から大正期(1854~1926)にかけての田畑の耕作、金銭の出入を記録した「万卸帳」「大福帳」「万覚帳」(B0037-00725~750)があります。



「(物成銀米納方等通綴)」B0037-00259

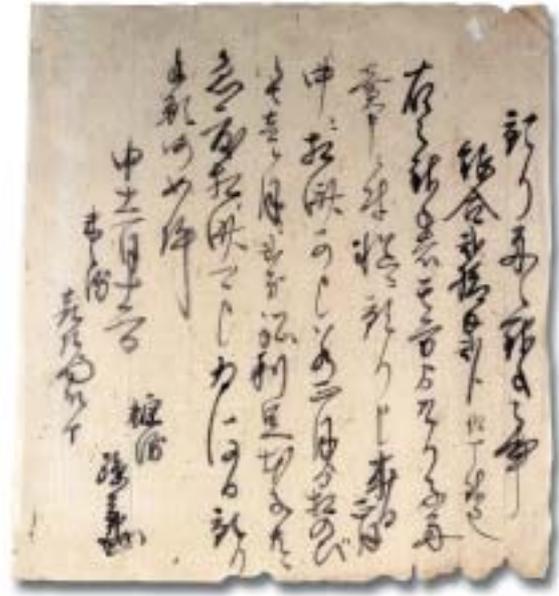
古文書紹介

寄託資料紹介

玉村九兵衛家文書(D0075)

玉村家は、1646年(正保3)には丹生郡米ノ浦の庄屋役を務めたことが確認できる旧家で、その後も代々村役を務め、近代入っても里長、戸長連合戸長、城崎村村長などの公職に就いています。

当家から寄託された資料1081点のうち寛永期から明治初年までの一紙文書に特色があり、県史でも鯛釣りの専門集団の来住を示す「そり子舟」の初出資料として1632年(寛永9)の「預り舟之銀子之事(銀20匁余)」(D0075-00904)や米ノ浦の逃散に関する厨浦・高佐浦の請状である1644年(正保1)の「御請状之事(百姓共欠落二付彦左衛門請書)」(D0075-00054)などが紹介されています。



「預り舟之銀子之事(銀20匁余)」D0075-00904

新たに公開した古文書紹介!

前号紹介後に新たに公開、あるいは近日中に公開できる古文書(目録、複製本)は次の通りです。

A0046 林孫右衛門家文書 福井市	B0027 畑伝右衛門家文書 永平寺町	C0024 北嶋英彦家文書 あわら市
A0073 江端区有文書 福井市	B0028 末政区有文書 永平寺町	C0092 竹内輔常家文書 あわら市
A0074 上中区有文書 福井市	B0031 法性昭寿家文書 永平寺町	C0009 高嶋善彦家文書 坂井市
A0075 坂下区有文書 福井市	B0033 田中澄男家文書 永平寺町	C0031 上木禎家文書 坂井市
A0076 脇三ヶ区有文書 福井市	B0037 勝見宗左衛門家文書 永平寺町	C0050 齋藤与次兵衛家文書 坂井市
A0077 地藏堂区有文書 福井市	C0015 松下俊夫家文書 あわら市	C0093 牧野行治家文書 坂井市
A0079 新保区有文書 福井市	C0016 照順寺文書 あわら市	C0100 野波英就家文書 坂井市
A0081 柵野区有文書 福井市	C0017 野尻五郎右衛門家文書 あわら市	C0103 演仙寺文書 坂井市
A0082 大島区有文書 福井市	C0018 岡藤宜光家文書 あわら市	C0104 伊藤又右衛門家文書 坂井市
A0083 西大味区有文書 福井市	C0021 坂井健夫家文書 あわら市	C0107 田崎市良右衛門家文書 坂井市
B0025 島田樹家文書 永平寺町	C0022 下番区有文書 あわら市	D0075 玉村九兵衛家文書 越前町
B0026 佐藤五右衛門家文書 永平寺町	C0023 川崎直右衛門家文書 あわら市	N0055 桜井市兵衛家文書 若狭町

講演会・講座報告

講演会

「戦前期の日満交通路と福井県 「日本海湖水化」の時代」

開催日：平成19年2月3日(土)
開催時間：13:30～15:00
講師：白木沢旭児氏
(北海道大学大学院文学研究科教授)
参加者：88名
場所：図書館多目的ホール



平成19年は、敦賀港が日本海側で唯一、横浜や神戸とともに国費で整備する最重要の港、「第一種重要港湾」に指定されてから100年にあたります。今年はこのことにちなんで環日本海交流に焦点をあてた講演会を開催しました。

前近代の日本海地域は、北前船交易に代表されるように日本列島の大動脈で、いくつもの城下町・港湾都市が繁栄していました。近代においても日本と朝鮮半島・ロシア沿海州・中国との交流は今では想像できないほど活発で、福井県は敦賀港を中心に大陸との貿易・交通の要衝でしたし、とりわけ1930年代には「日本海の湖水化」が海運会社・貿易関係者の合言葉となっていました。これは、満州国と日本を結ぶ大連・釜山に次ぐ第3のルートとして、清津・羅津などの北朝鮮3港が整備されてきたことに対応するものでした。講演では、こうした経済活性化の機会に、敦賀・新潟・伏木などの日本海側諸港がどのように対応したのかを資料に基づいて見ていきました。

県史講座

第1回「福井の鉄道125年のあゆみ」

開催日：平成19年2月10日(土)
開催時間：13:30～15:30
講師：田中完一氏
(鉄道友の会福井支部長、元県立藤島高等学校長)
参加者：57名
場所：図書館多目的ホール



県史講座

第2回「ふくい産業革命を担う - 軽便鉄道の敷設」

開催日：平成19年2月24日(土)
開催時間：13:30～15:30
講師：小谷正典氏(県立丸岡高等学校長)
参加者：57名
場所：図書館多目的ホール



入門講座

古文書入門講座

- | | |
|--|---|
| ①開催日：平成18年10月7日(土)
開催時間：13:30～15:30
講師：文書館職員
参加者：15名
会場：高浜町郷土資料館 | ②開催日：平成18年10月14日(土)
開催時間：13:30～15:30
講師：文書館職員
参加者：16名
会場：高浜町郷土資料館 |
|--|---|

今年度はじめて、嶺南地方で古文書入門講座を開講しました。受講者は、大変熱心に変体仮名や数字、人名など古文書の基本を学びました。

平成19年度もさまざまな行事を開催いたします。
前期の講座につきましてはp8に紹介してあります。皆さまの受講を心からお待ちしております。



お知らせ

講座のご案内

古文書入門講座

平成19年5月26日(土) 13:30～15:30

平成19年6月 2日(土) 13:30～15:30

平成19年6月16日(土) 13:30～15:30

定員：40名(要申込)

講師：文書館職員

会場：文書館研修室

資料保存研修会

平成19年6月中・下旬 13:30～15:30

定員：40名(要申込)

講師：未定

会場：文書館研修室

いずれも無料。問い合わせ・申込みは文書館まで

文書館収蔵資料展示のご案内

平成19年4月「安永6年の八重桜」

5月「藤野先生の手紙2」

6月「むしばまれる文書」

会場：文書館閲覧室

文書館では、福井県に関する歴史的な資料として重要な公文書、古文書などを保存しています。そこで、今年度からは閲覧室の展示ケースを利用して収蔵資料を広く県民の皆さまにご紹介する月替りの収蔵資料展示を開催しています。ぜひご来館ください。



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第9号

平成19年3月28日発行

編集・発行 / 福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp

ご利用案内

開館時間

午前9時から午後5時まで

休館日

月曜日(休日は除く)

休日の翌日(土、日、休日は除く)

文書等点検期間(年間10日以内)

年末年始(12月28日～1月4日)

清掃整理日(12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日)



フレンドリーバス(無料)のご案内

運行日：毎週月曜日、年末年始(12.28～1.4)を除く毎日のりば：市内バス5番のりば

経路：福井駅前～福井駅東口～高志高校前～羽水高校前～生活学習館～福井市美術館～県立図書館(県文書館)
(高志高校、羽水高校では、行きは乗車のみ、帰りは降車のみ可能です。)

運行時間：平日8:30～19:00 土日祝8:30～18:00

運行間隔：30分間隔

(県立図書館とともに毎時00分、30分発)

使用車両：1両は車椅子用手动リフト付きで、
1両はノンステップバスです。

編集後記

たより第9号をお届けします。今号では、古文書読解グループの活動について特集しました。今後も親しみを持っていただき、より多くの皆さまに文書館を利用させていただくためにさまざまな取り組みを行っていきます。

